

【島のくらしの情報】

青ヶ島

<p>①仕事（収入）の状況</p>	<p>来年度から村営塾をはじめます。進学塾ではなく、単なる学習塾でもない、子どもたちの心と創造性を伸ばす塾作りの仲間を募集します。</p> <p>あわせて、教育委員会で自然保護や歴史文化保存も担当していただきます。特に自然や生物、天文などにくわしい方、歴史や宗教文化等に興味がある方は歓迎です。</p> <p>島の子どもたちは現在17名（小学生10名、中学生7名）です。人数は少ないですが、元気のよい純真な子どもたちがあなたが島に来るのを首を長くして待っています。</p> <p>村営塾講師兼教育委員会臨時職員（3名募集） 文系1名 理系1名 文理問わず1名（ネイティブレベルの英語力のある方）</p>
<p>②住居の状況（貸家、空き家など）</p>	<p>島内には公営住宅があるものの、空室は少ないのが現状です。</p>
<p>③医療環境の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島に1軒ある診療所では、医師が一人、看護師が一人常勤し、住民の健康を守っています。歯科医も毎月来島しています。 ・急患は県のヘリコプターなどで本土の総合病院へ運んでいます。 ・妊産婦は、本土の病院での検診・出産が必要となります。
<p>④福祉環境の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老人福祉施設が1ヶ所あり、デイサービスを提供しています。
<p>⑤教育環境の状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岡部地区に青ヶ島小学校（児童10人、先生9人）、同じ場所に青ヶ島中学校（同7人、11人）があります。 ・両校では離島留学を実施しています。（癒しの親子旅「ワクワク友だちプロジェクト」も参加者募集中です） ・島に高校はなく、八丈島または本土の高校へ進学しています。村では、教育支援事業を行っており、八丈島の高校に入学した生徒は、実質無料で進学、卒業できます。
<p>⑥上下水道・電気・ガスの状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・島内の水道利用状況（上下水道普及率）は100%です。 ・ガスはプロパンです。 ・電気は、島内にある火力発電所を利用。

<p>⑦本土との交通手段（費用、時間、便数など）</p>	<p>【航路】 フェリー又は連絡船（竹下栈橋～八丈島底土港～青ヶ島三宝港） 本土からの直行便がないため、八丈島経由で。東京（竹芝栈橋）から大型客船（毎日運航・夜行便）で約10時間。八丈島から連絡船「青ヶ島丸」で2時間30分～3時間（月曜日～土曜日、1日1便） 大型客船を利用：大型客船「橘丸」で八丈島まで約10時間（1日1便：夜行）・大人10,060円（二等）。 連絡船を利用：連絡船「青ヶ島丸」で2時間30分（1日1便）・大人2,550円。</p> <p>【空路】 飛行機（全日空）（羽田～八丈島） ヘリコプター（東京愛らんどシャトル）（八丈島～青ヶ島） 羽田空港から八丈島空港へ。約1時間（1日3便）・大人15,190円。（往復予約した際の片道運賃） 八丈島空港から青ヶ島空港へ。役20分（1日1便）・大人11,530円。（定員9名のため、早めの予約が必須）</p>
<p>⑧島内の交通手段（費用、便数など）</p>	<p>バス、タクシーは有りません。レンタカー会社が2社あります。</p>
<p>⑨買い物場所・物価の状況</p>	<p>【買い物場所】 商店1軒のみ</p> <p>【物価】 本土の量販店を利用されている方は、定価販売の商店の物価は高いと感じられるかもしれません。離島では輸送コストがかかるため、受け入れざるを得ません。 最近では、AMAZONやヤフオクなどネットで買い物される方が多くなっています。</p> <p>※このほか、野菜などは自家用の畑で作っている方が多くいます。／ 漁師と農家で、魚と野菜の物々交換などもよく行われており、近所の方と仲良くなると、野菜や魚などのお裾分けも多くなります。</p>

⑩これまでの移住実績	
⑪移住を希望される方の短期滞在、 下見に対する支援の状況	
⑫移住にあたっての支援の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・公営住宅への優先入居を行っています。 ・移住に関わる交通費、輸送費などの転居費用を支給しています。
⑬そのほか島での暮らしぶりについて伝えておくべき必要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ・Iターン希望者は、島の暮らしに馴染めるかどうか、事前に島での短期ステイ（1ヶ月程度）を体験してみることをオススメします。また、四季それぞれの島の暮らしを体験してから移住を決めるとなお良いと思います。 ・地区の一斉清掃や寄り合いなどに積極的に参加し、自分から地域に溶け込む努力をすることが大切です。